

第3次生涯大学校マスタープラン策定に向けての検討

1 高齢化の進展

- ・ 団塊の世代が後期高齢者となる令和7年度には、約3人に1人が高齢者となり、4世帯に1世帯が高齢の一人暮らし又は高齢夫婦のみの世帯
- ・ 高齢者人口は令和32年頃まで増え続け、高齢化率はその後も上昇
- ・ 高齢化の進行に対応し、生涯現役社会の実現に向けた環境整備や健康づくりを進めることが重要

2 千葉県高齢者保健福祉計画 基本目標

(1)個性豊かに、健康で生き生きとした暮らしの実現

高齢者が自ら健康管理を行い、また、就労や社会貢献活動、趣味やスポーツ等、様々な社会参加を通じて生きがいのある自分らしい生活を実現させていくことが、生活の質の向上につながる。

(2)介護が必要になっても、安心して自分らしく暮らせる地域社会の構築

「支える側」、「支えられる側」といった従来の関係を超えて、地域の中で人と人がつながり、支え合うという関係を構築することで、介護が必要になっても、安心して自分らしく暮らせるような地域社会の実現を目指す。

県では、生涯現役社会に向け、社会参加・生きがいづくりを支援する環境の整備の促進を基本施策の一つに掲げ、生涯大学校運営に取り組んでいる。

3 生涯大学校の果たすべき役割
(平成24年3月マスタープラン策定)

- ① 自発的な生きがい・健康・仲間づくりの支援
- ② **地域活動の担い手の育成** ⇒ 特に重点を置いたもの
- ③ 市町村等との連携・役割分担した学習・活動の場の創出

4 生涯大学校の現状

○ 健康・生活学部の入学者数

第1次プランにおいて、ボランティア・地域活動の担い手育成を目的に設置（当時は地域活動学部）したが、定員充足率が低く、役割を十分果たせていない。

年度	H30	R1	R2
入学者数 (定員充足率)	555人 (76.0%)	526人 (72.1%)	565人 (77.4%)

○ 生涯大学校での学習成果

造形学部はマスタープラン策定以前からの歴史があり、学生の人気は高いが、趣味的要素が強く、地域活動に繋がりにくい。

卒業生（H29～R1）へのアンケート結果
(生大での学びを通じ得られたもの、役だったこと)

学部・コース	健康・生活学部	造形学部	
		園芸まちづくり	陶芸
地域活動・ボランティア活動につながった	33.9%	8.9%	22.8%
技術の習得や施設での体験	38.5%	72.4%	80.3%
ボランティアに役立つ知識の習得	43.8%	9.7%	25.2%

5 検討課題

I 生涯大学校の役割

超高齢社会を迎える中、高齢者が地域で役割を持って活躍し続けられる社会を実現するため、県が生涯大学校の役割として位置付けている「地域活動の担い手育成」の重要性を浸透させる必要がある。

II 学習内容

地域活動の担い手育成という生涯大学校の役割を踏まえ、全ての学部において、社会参加につなげる内容とする必要がある。